

平成29年8月10日

西部農林振興センター浜田農業普及部

標 題 **カットドレーンを用いた排水対策研修会を開催しました！**

(ダイジェスト)

県内のキャベツ産地の多くは水田転作であるため、排水不良による収量・品質の低下が問題となっています。そこで、排水性の改善を目的とし、新たに開発された穿孔暗渠機「カットドレーン」を使用した実演研修会が、浜田市金城町のほ場において開催されました。

キャベツは浜田圏域の主要共販野菜の1つであり、生産者組織のほぼ全戸で「美味しまね認証」の団体認証を取得し、「選ばれる産地づくり」に向けて取り組んでいます。しかしながら、その多くが水田転換畑での作付けであり、排水不良による収量低下が課題となっています。

そこで、全国農業システム化研究会の現地実証の一環として、額縁明渠や簡易暗渠、新たに開発された「カットドレーン」を用いた穿孔暗渠を施工することにより、排水性を改善し、水田転換畑におけるキャベツの安定生産技術の実証を行うこととしました。

7月27日に開催された実演研修会には、県内各地から約50名の参加者が集まり、関心の高さが伺われました。研修会は、(株)クボタの寺井技術顧問及び森田技術顧問による実証の概要説明からはじまり、(株)中四国クボタの流田課長及びスガノ農機(株)の下田エリアマネージャーより使用する農業機械の説明をして頂いた後、実演が行われました。参加者は、機械の迫力に驚くとともに、施工後のほ場を興味深げに眺めていました。

今後は、降雨後の排水効果の確認を行うとともに、実際に秋冬キャベツを作付けし、生育状況の確認を行っていきます。



カットドレーン（穿孔暗渠機）



振動サブソイラー